

### 「お早うございます」の一言から

#### アンデスの乙女とお友達に

朝の散歩の途中に、綺麗なイエローグリーンの花をつけた枝がフェンス越しに顔をのぞかせているお家があることに気が付きました。門扉のあたりを掃除されていた奥様に「お早うございます」と声をかけると笑顔とともに綺麗なアルトの「お早うございます」が返ってきました。次いで「綺麗な葉ですね、なんという木ですか」とお尋ねすると「“アンデスの乙女”という木です」とのこと。「へええ、こんな細い木にねえ」と驚きの声を上げたところ、「あ、こちらの木のことでしたか、“アンデスの乙女”はその隣りの木で、こちらはオーストラリアの木で名前は知りません」とのことでした。この間ずっと、穏やかな笑みと綺麗なアルトの声。「お早うございます」の一言から爽やかな早朝の一時を過ごし「本当に教養のある人は穏やかで優しい人なんだな」という気づきまで与えられたような気がしました。

そして、その「アンデスの乙女」という素敵なネーミングの花は、帰宅してからインターネット検索したところ右の写真のような花だと分かりました。素敵な花ですね。どこにでもありそうな花のように見えて、どこかアンデス山脈の山地に咲く明るく清らかな花というイメージを湛えているように思えます。原産地はブラジル中部からアルゼンチン北部で開花時期は8月～10月だとのこと。「アンデスの乙女」とお友達になり、開花期にはこちらから「お早う」の声をかけてあげたいような気持ちになりました。



#### 親愛の情と同志感・仲間うち感を伝える「お早うございます」

散歩していると、たくさんのワンちゃんたちと出会います。出会い頭にワンちゃんをお連れの人たちと「お早うございます」を交わした後にワンちゃんにも「お早う」と声をかけると嬉しそうに近寄ってくるワンちゃんがたくさんいます。そしてそれを見ている飼い主さんの笑顔。そう、私の方にも笑顔があるから親愛の情がワンちゃんにも伝わるのでしょうか。しかし、中にはこちらを警戒して近づいて来ないワンちゃんもいます。きっと、お家でも笑顔が少なくきちんと育てられているのだと思います。ところで挨拶の仕方と言えば、同じスポーツの場であっても、テニスクラブとスポーツジムでは大きな違いがありますね。テニスクラブでは、違うコートに立つ者同士であっても「お早うございます」の声飛び交うのですが、スポーツジムでは滅多に「お早うございます」の声を聞いたことがありません。テニスと同じボールをお互いに打ち合うスポーツであるのに対して、スポーツジムでは銘々がマイペースでマシンに取り組んでそれぞれの身体を鍛えるところだからなのかもしれません。しかし、テニスにも稀に「お早うございます」を口にしないメンバーがいます。そういう人がダブルスのパートナーとなると、完全にお互いがシングルス意識の妙なダブルスペアとなってしまいます。普通パートナーにボールを渡す時には、奮闘を鼓舞するような一言をかけて丁寧に渡すものですが、「ノンお早うございますプレーヤー」にはパートナーを思いやる素振りが全く見られません。ここでもきっと、自分のベストを尽くすことしか考えていないのでしょうね。「お早うございます」は親愛の情を伝える言葉であるとともに一種の同志感・仲間うち感を伝える言葉なのかもしれませんね。

## 夜になっても「お早うございます」

日本語教育は難関の日本語教育能力検定試験に合格していなくてもそこそそ務めることができます。殊に日本語教育能力検定試験受験のための勉強をしたことがない日本人が、英語民族に対して日本語でもって日本語を教える直接法ではなくて英語を用いた間接法で日本語を教えるケースはよく見られるところです。しかし、この手の日本語教師が、「午前中は good morning = おはよう、午後は good afternoon = こんにちは」と教えたりしてしまうと、「家に来た留学生、いつまでたっても家族に“こんにちは”っていうんですよ」なんて苦情が出ることになります。「こんにちは」では「お早うございます」が持つ親愛の情や同志感・仲間うち感が少しも伝わらないからなんですね。お昼の挨拶「こんにちは」や夜の挨拶「こんばんは」と違って、唯一「ございます」を付けられることからしても「お早う」には相手を労う意が強いということが分かります。芸人やホステスさんたちが夜になっても一日の初の出会いの際に「お早うございます」を使うことをよくご存じかと思いますが、そもそも「お早うございます」の「早い」は午前中などの「時間帯が早い」場合だけでなく、(本番開始より早い時刻に)「お早くから仕事大変ですね」「お早くからいらっやていましたね」という相手への敬意を表す意味が含まれているということを理解しておく必要があると思います。

因みに語源由来辞典を調べてみますと、「おはよう」の語源は、「お早く〇〇ですね」などの「お早く」で、この「お早く」が転じて、「おはよう」になったのだそうですね。そもそも、「おはようございます」という挨拶は歌舞伎の世界から広がったのだとか。歌舞伎役者の準備にはかなり時間がかかるんだそうです。そんなこともあって、公演よりかなり早い時間に到着して準備をしていたので、それに対して裏方さんが「お早いおつきでございます」という言葉で出迎えた労いの挨拶ということのようです。たった一語の「お早うございます」ですが、これも“素性正しく”教えるのは難しいことなんだなと改めて思いました。

